

(報告) 第215回鶴見川舟運復活プロジェクト定例会

日時：令和8年3月21日(土) 18時から
場所：新羽地域ケアプラザ4F

経過

- 2月26日、『タウンニュース』に、「舟運文化を次世代に継ぐ 鶴見川でシニアが活躍」の見出しで、本会の活動が紹介されました。(下の写真参照、担当：大谷会長、佐藤さん)
- 2月28日、スタジアムからの令和8年度助成金申請書の審査結果が出ました。(担当：小股さん)
- 3月1日、鶴見川流域センターの水マス学習会(協力事業)が開催され、大谷会長と内山さんが登壇されました。
- 3月12日、『タウンニュース』に、1日の水マス学習会の様子が紹介されました。(下の写真参照)

本日の予定

- 議題
- ① 5月16日の総会について **準備担当の小股さん・中村さんに感謝です**
 - ② 新羽社協の助成金申請について **一部修正して申請します**
 - ③ 春の自然観察会や田植え等の日程について **田植えは6/6を原案に**
 - ④ その他、連絡事項など **辺野古事故を受けて安全管理の見直しを検討**

話題提供 水マス学習会「河岸がつないだ流域の暮らし」から、座談会部分の記録映像(TRネット提供)の上映 **⇒今後延期しました**
4月からケアプラの所長が水村氏から成田氏へ 花束をお渡しして記念撮影

次の日程

(第216回) 令和8年4月18日(土) 18時から
場所：新羽地域ケアプラザ4F



舟運文化を次世代に継ぐ
鶴見川でシニアが活躍

歩かぬ鶴見川にまると、その伝統を未来へ残してき北流。かつてそう活動していたこの川は、舟運といが地元「鶴見川舟運」文化があったが、今で復旧プロジェクト(大谷会長)だ。

2007年の設立以来、シニア世代が生き生きと活動しているメンバーら。記録や流域の歴史をまとめた書籍DVDの販売なども手がけ、地域の魅力を積極的に発信し続けている。現在、同会では共に活動

和舟製作と実際に川へ浮かべる活動をはじめ、地域の歴史や文化の調査・発表、新横浜公園での乗船体験や田植えなどを通じて、多様な機会を提供する。多岐にわたる取組を行っている。同会は、豊かな経験と知識を生かして多くの

「交流」ながら、地域の歴史や自然を未来へ伝える活動に、ぜひ参加してみたいかならうか。問い合わせ等、詳細は「公平11-18」から、



上映・座談会
教訓つなぐ
鶴見川の歴史
水マス学習会に約30人

小机町の鶴見川流域センターで3月1日、「鶴見川流域水マスツアー」な進行検証で新横浜の「天曲」の難所に挑んだエピソードや、鶴見川舟運復活プロジェクトの大会佐一会長から昭和期の土砂崩れや堤防決壊の危険な、消防員としての生々しい水害体験が語られた。参加者からは「怖さや悲鳴が伝わり、語り継ぐべきた」定期的話を聞くと、本書を忘れないための防災訓練になる、といった声も寄せられた。また、長年の治水対策により昭和50年代以降氾濫が起きていない現状を知り、温暖化が進む中で、今後も治水に関心をもち続けたいとの声も上がり、区民が防災意識を新たにする有意義な場となった。

映像作品は3月31日(水)まで見逃し配信が可能。要申込み。問い合わせは鶴見川流域センター045-4175-110(受付時間11時～18時)まで。

↑ 『タウンニュース』 3月12日

← 『タウンニュース』 2月26日